

善隣

No.487 通巻754

2018年（平成30年）1月1日発行（毎月1日発行）

2018

1



一般社団法人

国際善隣協会

新年あけましておめでとうござい
ます。年頭に当たり、皆様のご健康
とご家族のご多幸をお祈りいたしま
す。2018年がスタートいたしま
した。昨年は、政治や経済の面で、
予想に反するような大きな変動が展
開されました。本年はどのような年に
なるでしょうか。ち

なみに当協会の正
会員の人数は12月
末現在で167名

で、平均年齢は75・
0歳で、昨年3月
末より若干会員は
増えております。

協会活動の面では、戦後70年前
後を振り返りますと、

平成27年4月..パラオ訪問

平成27年5月..長野県阿智村

『満蒙開拓平和記念館』訪問

平成27年8月..中国・北満洲訪問
(墓参を兼ねて)

以上でかつての国際善隣協会関係
の物故者に対する全ての墓参は、

最後になりますが、会員皆様のご
健勝を心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

会員の皆様へ

会長 矢野 一彌



兼ねて)

平成29年7月..「日中國交正常化45
周年」北京市・甘粛省の旅

協会にしてゆきたいと思つております。
何はともあれ、会員皆様の
協力とご支援を得ながら、協会の
将来を切り拓く努力をしてまいり
たいと考えます。

平成29年8月..樺太(サハリン)
訪問(墓参を兼ねて)

最後になりますが、会員皆様のご
健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成28年6月..舞鶴・博多・佐世

計画通り実行できたと思います。

保引揚港訪問

平成28年7月..モンゴル・ロシア
訪問

平成28年10月..「引揚70周年記念
の集い」開催

平成28年11月..台湾訪問(墓参を

会館の存続・老朽化対策、会員の
増強、教育事業等新分野開拓、な
どの課題に挑戦していく所存です。
また、国際善隣を目的とする協会
としては、東南アジア諸国との
取り組みに門戸を開いてはどう
かとの提案もあり、民間ベース
での交流を中心とした国際善隣

協会にしてゆきたいと思つております。

善隣 目 次

2018年1月号

新年のご挨拶

- 会員の皆様へ 矢野一彌

公開講演会記録

習近平2期体制の分析	矢吹 晋	2
中国をめぐる最近の物流動向 “一带一路”を中心に	小島末夫	11
中国ビジネス回顧	武田勝年	18
コラム 〈腰折れ文〉五、	渡邊澄子	25
中国ウォッチング	編・訳 上松玲子	26

会員彼是

「史実資料蒐集」の経緯	中村 肇	30
陶々俳壇	馬場由紀子選／馬場由紀子	31
協会通信・会員だより・同好会だより		32
2018年1月の行事予定		33

善隣 第487号 通巻754号

2018(平成30)年1月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03(3573)3051
FAX 03(3573)1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

◆原稿・写真など大募集◆ 24**みんなの写真館** 32

習近平2期体制の分析

横浜市立大学名誉教授 矢吹 晋（会員）



中国共産党第19回党大会は10月18～24日に北京で開かれ、そこで選出された中央委員たちによって25日に政治局委員25名と常務委員7名（いわゆるトップセブン）の顔触れが選出された。習近平2期体制のトップセブンの陣容およびその職務分担は、①習近平＝総書記、②李克強＝国务院總理、③栗戰書＝全人代委員長、④汪洋＝全国政協主席、⑤趙樂際＝紀律検査委、⑥陳敏爾＝宣伝担当、⑦胡春華＝国务院常務副總理、である。一見して明らかのように、私が予想した陳敏爾と胡春華の常務委員昇格はならず、代わりに王滬寧と韓正が昇格した。

7名のポストのうち当たったのは5名だから、勝率7割だ。分担ポストから見ると、同じくイデオロギー宣伝担当（王滬寧）と国务院常務副總理（韓正）の人選を間違えたので、勝率はやはり7割になる。



では日本のメディアの予想はどの程度当たったか。総じて惨憺たる見込み外れというべきである。典型的ケースを挙げよう。上の写真は、NHKが大会初日18日夜9時の「ニュースウォッチ9」で映した図である。この図のうち、王岐山は「留任？」と説明された。留任か退任か、未だ不明という解説であった。陳敏爾（重慶市書記）については「2階級特進」して常務委員昇格が実現するかどうかが見どころと解説された。結果から明らかなように、両者共に見込み外れ、大きな判断ミスである。N HKに限らず、日本の主流メディアは、人事予想の核心として、王岐山の留任問題を大きく報じ��けて、それは大会初日まで、否、事

後の解説の開き直りまで続き、今日に至る。反省は皆無だ。王岐山が虎退治に辣腕を振るい、薄熙来（当時、政治局委員）、令計画（当時、中央弁公庁主任）、徐才厚（軍副主席・政治工作担当）、郭伯雄（軍副主席・軍令部門担当）ら超大物を摘発して、習近平体制作りに大きな貢献を果たしたことは周知の通りである。私は自身はその反腐敗闘争を高く評価して『中共政権の爛熟・腐敗』（蒼蒼社、2014年11月、高橋博との共著）を書いて、紹介した。その際に、王岐山は常務委員2期目であり、「七上八下」の潜規律からして、本期をもって退任するので、最後の大仕事に全力を投入している。しかも王岐山夫婦には、実子がなく、子孫が政敵によって報復を受けることもないのでは、後顧の憂いなしにこの大事業に取り組めるのだという巷間の声も紹介していた。ところが日本メディアの解釈は、私の解釈とはまるで逆に、王岐山の政敵追放は、それを通じて自らの常務委員3選を工作するもの、しかもそれは「習近平3選へと道を開くことを意図したもの」と解釈し、それを大会初日まで続けた。これは異様な、異常な姿と評すべきだ。私見によれば、いわゆる「七上八下」（政治局委員を選ぶに際して、満68歳を

越えた者は昇格対象者から外す。68歳未満の者に限定する）の方針は、1992年以来今日まで5期25年にわたって実行され、いまでは固い慣行と化しているので、王岐山留任問題はそもそもありえない思いつきであった。私が根拠としたのは以下の3枚のリストだ。

表1 江沢民指導部（14期および15期）

		氏名	1992年齢 (就任時68未満の入口制限)	1997.09(予)	生年
江沢民 1期目 (1992～1997)	14期	江沢民	65歳11月就任	70歳再任	1926.08
		李鵬	63歳9月就任	68歳再任	1928.10
		喬石	67歳7月就任	67歳超えて引退	1924.12
		李瑞環	57歳10月就任	62歳再任	1934.09
		朱鎔基	63歳9月就任	68歳再任	1928.10
		劉華清	75歳9月	引退	1916.10
		胡錦濤	49歳7月就任	54歳再任	1942.12
江沢民 2期目 (1998～2002)	15期		1997年齢	2002.11(予)	生年
		江沢民	70歳11月再任	75歳引退 (2期10年)	1926.08
		李鵬	68歳9月再任	73歳引退	1928.10
		朱鎔基	68歳9月再任	73歳引退	1928.10
		李瑞環	62歳10月再任	67歳引退	1934.09
		胡錦濤	54歳7月再任	59歳再任	1942.12
		尉健行	66歳6月就任	71歳引退	1931.01
		李嵐清	65歳2月就任	70歳引退	1932.05

表3 習近平指導部（18期および19期）

		2012年齢	2017.10(予)	生年
習近平 1期目 (2012～2017)	18期	習近平	59歳就任	1953.06
		李克強	57歳就任	1955.07
		張德江	66歳就任	1946.11
		俞正聲	67歳就任	1945.04
		劉雲山	65歳就任	1947.07
		張高麗	66歳就任	1946.11
		王岐山	64歳就任	1948.07
習近平 2期目 (2017～2022)	19期		2017年齢	2022.10(予)
		習近平	64歳再任	1953.06
			69歳引退必至 (2期10年)	
		李克強	62歳再任	1955.07
		栗戰書	67歳就任	1950.08
		汪洋	62歳就任	1955.03
		王滬寧	62歳就任	1955.10
		趙樂際	60歳就任	1957.03
		韓正	63歳就任	1954.04

表2 胡錦濤指導部（16期および17期）

		2002年齢	2007.10(予)	生年
胡錦濤 1期目 (2002～2007)	16期	胡錦濤	59歳7月主席就任	1942.12
		吳邦國	61歳0月就任	1941.07
		溫家寶	59歳10月就任	1942.09
		賈慶林	62歳4月就任	1940.03
		曾慶紅	63歳0月就任	1939.07
		黃菊	63歳10月就任	1938.09
		吳官正	63歳11月就任	1938.08
胡錦濤 2期目 (2007～2012)	17期	李長春	58歳5月就任	1944.02
		羅幹	67歳0月就任	1935.07
			2007年齢	2012.11(予)
		胡錦濤	64歳7月主席再任	1942.12
		吳邦國	66歳0月再任	1941.07
		溫家寶	64歳10月再任	1942.09
		賈慶林	67歳4月再任	1940.03
		李長春	63歳5月再任	1944.02
		習近平	54歳1月就任	1953.06
		李克強	52歳0月就任	1955.07
		賀國強	63歳9月	1943.10
		周永康	64歳7月	1942.12

回党大会において、江沢民によって「七上八下」が破られたのは、この年の2月に元老鄧小平が死去したこと、ポスト鄧小平期の政治の安定に誰もが不安を感じていたことを奇貨として、江沢民が「居座り」を画策して成功したものだ。それだけでなく、江沢民は2002年に引退する際に常務委員枠を2名増員して9名に増やし、常務委員会で多数派を形成する態勢を整えて引退し、引退後は彼ら代理人を通じて「院政」を実行した。こうして江沢民は2期10年に加えて、後継の胡錦濤の2期10年、都合20年にわたって、中共指導部に君臨した。それが何をもたらしたかは、すでに明らかだ。薄熙来、周永康、徐才厚、郭伯雄に続いて、右の表にリストアップされた中央委員級の高級幹部が相次いで「落馬」した。

ここで習近平が盟友王岐山の力を借りて、「虎退治、蠅叩き、狐狩り」を断行したとき、すべての根源が江沢民に帰着する

事実を冷静に認識していたはずだ。とはいえ、すでに引退した江沢民まで責任を追及することはしない。これが大局の安定を重んずる習近平らの政治的知恵だ。いざれにせよ、私はこの3枚のリストを丹念に見比べながら、このリストから得られる教訓をまるで無視したかのような日本メディアの憶測オンパレードを冷笑しつつ、10年ごとに繰り返される「北京発大誤報」を整理してみた。今回の特徴は、以下のごとくである。

①王岐山留任論

これを書き続ける記者や「識者」たちは「七上八下」の潜規律が理解できていない。それだけではない。中国の定年は女性50歳、幹部女性55歳で

姓名	原职务	所涉问题	首次报道时间
蒋洁敏	国务院国资委主任、党委副书记	严重违纪	2013年9月1日
李东生	中央防范和处理邪教问题领导小组副组长、办公厅主任，公安部党委副书记、副部长	严重违纪 违法	2013年12月20日
杨金山	成都军区副司令员	严重违纪	2014年10月23日
令计划	全国政协副主席、中共中央统战部部长	严重违纪	2014年12月22日
周本顺	河北省委书记、省人大常委会主任	严重违纪 违法	2015年7月24日
杨栋梁	国家安全生产监督管理总局党组书记、局长	严重违纪 违法	2015年8月18日
苏树林	福建省委副书记、省长	严重违纪	2015年10月7日
王珉	全国人大教育科学文化卫生委员会副主任委员	严重违纪	2016年3月4日
田修思	空军原政委	严重违纪	2016年7月9日
黄兴国	天津市委代理书记、市长	严重违纪	2016年9月10日
王建平	中央军委联合参谋部副参谋长、武警部队原司令员	受贿犯罪	2016年12月29日
李立国	民政部原党组书记、部长	严重失职 失责	2017年2月8日
孙怀山	全国政协常委、港澳台侨委员会主任	严重违纪	2017年3月2日
项俊波	保监会主席	严重违纪	2017年4月9日
王三运	全国人大教育科学文化卫生委员会副主任委员	严重违纪	2017年7月11日
孙政才	重庆原市委书记	严重违纪	2017年7月24日
杨焯宁	国家安全生产监督管理总局党组书记、局长	严重违纪	2017年7月31日

ある。この定年を延長する計画はあるが、いまだ実現していない。男性の定年は60歳で、閣僚級(次官を含む)は65歳であり、これは厳守されている。この男女定年制度を基礎として、例外として68歳未満の者を政治局委員および全人代、政協の幹部に選ぶ「潜規律」が鄧小平時代以来、これまでに選ばれてきた。この「潜規律」が「七上八下」(67歳は昇格可、68歳は昇格不可)が潜規律になっている。日本のチャイナ・ウォッチャーは、この「潜規律」の意味を理解できない。単に中央委員会あるいは政治局の決議によってあっさり変更できると誤解している。多分、我国の与党内閣が恣意的に任期を決めているのを見て、中国は日本以上に独裁的であろうと見たのである。すなわち習近平が「独裁権力」を獲得したからには、それを実行しないはずはない、と確信したものか。いわゆる習近平独裁とは、「集団指導制の枠内」での「リーダーシップ強化」という話であり、習近平の権力には限度のあることを認識すべきだ。2012年に習近平が総書記に就任した当時、日本では「中国共産党史」上、最も弱い総書記の誕生」と揶揄する書物が出たことを忘れてはならない。ところがまもなく、一転して彼らは前言を翻して、「習近平独裁、習近平一強」を語り始めた。「最

弱」から「二強」へ、独裁体制ができたからには、その狙いは「三選にあり」、こうして習近平三選論が現れた。ヘリクツはヘリクツを呼ぶ。みずから三選のためには、そのテストケースが必要だ。すなわち「王岐山三選」という先例だ。こうして王岐山留任論が日本のほとんどすべてのメディアを席捲した。この憶測に自ら緊縛された日本メディア界は、10月18日大会初日夜のNHK「ニュースウォッチ9」まで、否、大会を経て王岐山引退が確認されてからも、謬論を改めていない。

くる。典型的なマッチポンプの開き直りである。興梠はテレビの前で、結果が出たあとに悔しそうに強調することによって阿呆ぶりを天下にさらした。ちなみに、阿呆はA—I—I—B問題においても、「参加せず、模様眺めせよ」とNHKで語り、安倍政権に迎合する御用学者ぶりを発揮した前科をもつ。「矢吹は日本政府のA—I—I—B無視政策を批判して、「A—I—I—B不参加で世界の孤児となる日本」『中国情報ハンドブック2015』蒼蒼社、2015年を書いた。」彼は商社出身だから、A—I—I—B

くる。典型的なマッチポンプの開き直りである。興梠はテレビの前で、結果が出たあとに悔しそうに強調することによって阿呆ぶりを天下にさらした。ちなみに、興梠はA—I—I—B問題においても、「参加せず、模様眺めせよ」とNHKで語り、安倍政権に迎合する御用学者ぶりを発揮した前科をもつ。「矢吹は日本政府のA—I—I—B無視政策を批判して、「A—I—I—B不参加で世界の孤児となる日本」（中国情報ハンドブック2015）蒼蒼社、2015年を書いた」。彼は商社出身だから、A—I—I—Bの創設に参加しないことの不利を理解でききないはずはない。にもかかわらず、御用テレビで御用論説を語る。この種の低俗評論家によって、日本のテレビ界、世論はミスリードされ続けている。「朝日新聞」の連載記事で同じ論理を繰り返したのは、北京駐在の延与光貞記者である。この記者もかなりレベルが低い素人だ。一知半解が随所に露呈している。北京に駐在しながら、香港紙の解説記事を要約して、京駐在記者の意味はどこにあるのか、疑われよう。

理由」なるものを挙げて、お茶を濁す。これが公共放送ＮＨＫ、それに追随したテレビ朝日の中国報道の核心であり、他社も五十歩百歩、大同小異だ。ＮＨＫは郭文貴の固有名詞に触れず、「在米の富豪」とぼかした。テレビ朝日は、郭文貴のビデオと肉声録画を長々と流して王岐山の不正を印象づけた。これが「ＮＨＫ的良識」と「民間テレビ流センセーショナリズム」の違いであり、曰くそ鼻くその違いにすぎまい。ＮＨＫはさらに25日夜、「中国取材10年余」を謳う藤田正洋記者に、王岐山引退を解説させたが、聴くに堪えない愚論であった。中国政治の奥行きをわずか「10年余」で理解できると錯覚するＮＨＫ中国報道陣の劣化は救いがないものがある。これで公共放送とは、笑わせる。私はここで記者の無知を笑い飛ばすがその元凶は、政治経済関係の事実上の断絶と誇張で、どの日中間の深淵だ。中国を敵国扱いし、その封じ込めを図る日本政府の走狗の役割しか演じない記者たちを中国側が敬遠するのは当然ではないか。かくて取材ソースを断たれた記者たちは、臆面もなく憶測を繰り返すことになる。記者たちが伝えなければならぬ真実とは、憶測に憶測を重ねた虚偽報道ではあるまい。不幸な政治関係のも

とで、ニュースソースにアクセスできていないという「報道現場の真実」を正しく国民に訴えることであろう。それとは逆に政権に迎合するマスコミ幹部の顔色をうかがい、それに迎合する社内向けの記事を書き続けている。そのようなスタンスが露呈されただけのことだ。病は重い。

Reporters Without Borders (RSF), for freedom of information (<https://rsf.org/en/ranking>)によると、2017年の世界報道の自由度ランクイン調査で、日本の順位は世界180か国中72位であり、安倍内閣のもとで年々順位が低下している。

②習近平「三選」「三選準備論」。彼らには「二期10年」の国家公務員規則が理解できていない。党幹部について、一政党の事柄として細則を欠いている部分がある。しかしながら、国家公務員規則では、漏れなく細則がある。そしてこれが重要だが、「党側の規則が特に規定されていない場合」は、「国家公務員規則を準用すること」が定められている。たとえば閣僚や副総理、総理級のポストは「一期を5年とし、二期10年を限度とする」とが明記されている。そして「党が国務院を指導する」という建前とは一見矛盾するような事態だが、党幹部制度は裏から見ると、国家幹部制度と表裏一体であり、ここでは「国家幹部の制度が

党幹部にも準用される」のだ。これが中国の政治体制の骨幹をなす党＝国家構造の中核なのだ。しかしながら、この事實を明記した政治研究者の書物は見当たらぬ。研究者も劣化が進んでいる。

③習近平「党主席」復活論。党主席毛沢東と国家主席劉少奇という二つの国家主席ポストが一重権力化した失敗に鑑みて、中国は国家レベルの「主席ポスト」と党レベルの「總書記」ポストを一身に兼ねる形態を選んだ。この歴史を顧みるととき、「党主席」ポストの復活論は、ほとんど鉄の壁だ。单なる思いつきを軽々しく語るのは素人にのみできる芸当であろう。

④常務委員5名への削減説。「江澤民が2名増員」して自派を増やし、「胡錦濤が7名に戻した」。習近平は胡錦濤に倣つて5名に削減するかもしれない。常務委員数を増やしたり、削減することによって多数派工作を行うとは、現に行われた事実はあるが、それがいかなる腐敗の温床となつたかを反省して習近平の反腐敗闘争が展開されていることの意味に不感症な者だけが、この種の思いつきにとりつかれる。

⑤習近平が党の核心として自らを突出させたとき、李克強の地位が危うい、失脚ではないかとの観測が広範に広まつた。私は当時、これは「習近平の地位が上がった」のであり、「李克強の地位には変化がない」と分析した。すなわち中国史の伝統では、「皇帝と宰相」の関係になる。「皇帝」毛沢東と「宰相」周恩来的関係を踏まえた「党高政低」構造の明確化である、と論じた。[\[矢吹晋『習近平の夢』花伝社、2017年、223頁、「党高政低というパターン」を参照されたい\]](#)

王滬寧と韓正はなぜ常務委員に昇格できたのか。その背景を考えてみよう。王滬寧は1955年10月生まれで、今年62歳だから、2022年67歳、二期可能な年齢である。王滬寧の原籍は山東省萊州だが、本人は上海生まれで名門復旦大学で国際政治学を教えていた。政策提案に巧みなところを買われて、江澤民時代の「三次の代表」論や胡錦濤時代の「科学的発展観」などの理論づけを行い、それぞれの党大会における政治報告起草の重要な指南役を果たした。その役割は習近平時代も続き、2012年には政治局委員に抜擢され、中共中央政策研究室主任になった。2017年4月の習近平訪米には、汪洋、栗戰書、楊潔篪、房峰輝らとともに随行した。[\[矢吹晋『習近平の夢』1頁、「米中海湖庄園の会談2017年4月」を参照されたい\]](#)

これに限らず、習近平の主な外遊には、す

べて随行している。モノカキ、文書作成のプロがなぜおもてに登場したのか。現代中国は21世紀にはいるや一気にグローバル経済下の中国经济に変身する大発展を遂げて、文字通り世界経済の中の中国经济に転化した。この経済力をベースとして、政治面でも、軍事面でも、中国は一気に世界に躍り出たので、過去の政策との整合性を保ちつつ、21世紀の国際政治経済、安全保障の問題に取り組むのは容易ではない。舞台裏でボリシーを練り上げ、それを舞台上の習近平に届ける形では、対応に遅れを生ずるケースがしばしば起ころ。かくなる上は、習近平の影武者のように、いつも身近なところからアドバイスを行う知恵袋が不可欠だ。このようなニーズに応えるために、そしてそのアドバイスに権威性を付すためには、裏舞台の政策プランナーの地位から表舞台の政治家の地位を与えておくほうが、対外折衝も含めて便利だ。私見では、21世紀国際社会で中国の直面する複雑多岐にわたる問題に即座に対応する必要上、本来ならば舞台裏で活躍すべき役割の人物を表舞台に押し出し、権威付けを与えたのではないかと解している。上海市書記としての経験をもつ韓正は、常務副総理として李克強総理を支えるのは、穏当な人事とみてよい。

いま21世紀中国の直面する国際問題に言及したが、その内容はズバリ、対トンプ対策およびその系としての対北朝鮮対策である。これが中国から見ていかに深刻かつ重大な問題であるかについて、日本の認識は極度に浅く、物事を理解しているとは到底いえない。

私は時事通信のインタビューにこう答えた。

私は時事通信のインタビューにこう答えた。

◎対米・北朝鮮、「一強」で結束 矢吹晋・横浜市立大学名誉教授（中国政治）の話

政治局常務委員会入りするのではないかと思われた次世代の胡春華氏と陳敏爾氏は選出されなかつた。これは習近平共産党総書記が2期目以降を考える余裕がなく、これから5年間の問題に集中する意思の表れだ。習氏の判断理由には、全く先が読めない国際情勢がある。一つは米中関係だ。米中間の対話のチャンネルはさまざまあるが、トランプ大統領との関係は読みにくい。外相経験者で67歳の楊潔篪・國務委員を政治局員として起用したのも、明らかに米国対策だ。楊氏は米国との強いパイプを持っている。彼は外交部に就職して以来、貫して当時の在中国米国事

務所所長を務めていたブッシュ（父）にフルアテンダントして、その人脈はブッシュ（子）にもつながり、圧倒的な米国人脈をもつ。誇張すれば、楊潔篪は外交部米国局とワシントン中国大使館勤務を往復するだけで、外交官人生を終えた得意な経歴をもつ。そのような米国通に権威付けして対米折衝に当たらせるためと見てよい。もう一つは北朝鮮問題だ。中国との関係が深かつた金正恩朝鮮労働党委員長の叔父・張成沢氏と異母兄・金正男氏が殺害され、不在となつた今、中朝関係は猛烈に悪い。習氏は金正恩政権をつぶすしかないと思っているのではないか。その際に米国と組むべきだという人たちと、それを否定する人たちとの間に激しい対立が政権内にあり、大きな問題になつてゐる。重大な北朝鮮対応で政権内を一本化するためにも、習氏の「一強」で結束する必要がある。（胡陳両氏など）若手を入れたかつたが、その余裕がなかつた、と見るべきだろう。（了）

王滬寧と韓正が常務委員に昇格して、習近平の側近陳敏爾と胡錦濤が抜擢した胡春華が常務委員に昇格できなかつたのは、陳敏爾や胡春華の後継者としての地位に変化が生じたものではあるまい。5年後の後継者選択に取り組む前に、当面する喫緊の課題がある。すなわち北朝鮮対策と

対米協力問題である。その一端が果たして暴露されてい^る。

北京大学国際関係学院院長の賈慶国教授が East Asia Forum なる英文サイト [http://www.eastasiaforum.org/] に「Time to prepare for the worst in North Korea」（北朝鮮の最悪の事態に備えるべき時）と題した短文を発表した。彼は韓国に招かれてシンポジウムで発言した要旨をまとめたのである。時期は9月11日、北朝鮮による大型水爆実験の直後であった。トランプが北朝鮮に対する軍事作戦に言及して、あらゆる選択肢を検討していると繰り返し述べているのは周知の通りである。この軍事作戦に中国はどのように対応するのか。賈慶国は答は单纯明快、中国はトランプ作戦を全面的に支持せよ、というものである。すなわち米国の軍事作戦に協調する行動を中国は採用すべきだとする主張である。半世紀昔の朝鮮戦争においては、中ソ軍事同盟に依拠して米帝国主義と戦ったが、今回は米中が協力して、北朝鮮のハードクラッシュを避けるべきだという提案だ。北京大学国際関係学院を創設した初代院長は王緝思である。彼は中国社会科学院米国研究所所長の地位から、母校の北京大学に戻り、米中関係について Foreign Affairs

等 [https://www.foreignaffairs.com/articles/china/2011-02-20/china-search-grand-strategy] Wang Jisi,

China's Search for a Grand Strategy:A Rising Great Power Finds Its Way, March / April 2011 Issue.] に積極的な提案を行つてゐた。しかし、北京大学国際関係学院の政策提言者としての権威性は明らかだ。しかむのの賈慶国提案に對してブルッキングズ研究所のジェフリー・ペーダー（前ホワイトハウスアジア部長）がこれに呼応したコメントを同研究所のホームページに発表し、中米両国のシンクタンク間の阿吽の呼吸を示唆している。ところ

で、この賈慶国提案に猛然とかみついたのが朱志華・浙江省国際関係学会副会長らであり、朱らは賈慶国や同じ見解をもつ沈志華（上海華東師範大学教授）、朱鋒（南京大学教授）等を「虎（米国）のために、手先となるものだ」と猛烈にこきおろしている（「評賈慶国在朝核危機問題上の一派胡言」）。これに対して賈慶国は「回应朱志華先生对我的攻擊、有理不在声高」で反論した。

ブログ千鈞棒は「賈慶国は虎（米）のために走狗となるものだ」（2017年9月21日）と賈慶国をこきおろしている。中国でなぜこのような論争が起こつてゐるのかについて、日本のメディアは極

度の不感症に陥つてゐる。それは日本国内の支離滅裂な対北朝鮮無策が改められないことを反映している。北朝鮮の核が米国西海岸に届くほどにミサイルや核弾頭の小型化を進めるうえで、一定の時間を要することは明らかだ。しかしながら、その核は狙うのは米国とは限らない。沖縄や東京は当然射程内にあるし、いつそこに向けられても不思議ではない。米軍の斬首作戦に日本が参加する、あるいは支持すると表明している以上、相手側が攻撃基地を攻撃するのは見やすい道理ではないか。中朝関係の現状からすれば、北朝鮮の核が北京を標的とすることもありうる。張成沢や金正男の暗殺は、それに備える予防措置の一環と解すべきであろう。これが中朝関係の一つの断面だ。中朝間はここまで冷えきつており、敵対関係はいつ爆発してもおかしくはない。そのような緊張を踏まえてトランプの中國訪問が11月に予定されている。中国はトランプをどう迎えるのか。そこを事前に読み切り、金正恩は北朝鮮と中国を結ぶ太い人脈（張成沢、金正男）をすでに処分している。〔矢吹『習近平の夢』262頁〕）のような大問題が焦眉の急ならば、習近平が「5年後」を予定する前に、当面の5年に全力を集中しなければならな

いのは、火を見るよりも明らかではないか。日本では北朝鮮に由来する「国難」を利用して、衆院選挙に勝ち、これを自慢げに副首相麻生が語る。〔<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO2275909026102017PP8000/>〕「北朝鮮のおかげ」麻生氏が発言／10／27付日本経済新聞（朝刊）。Jアラートなるもので危機を煽りつつ、日本海に面して林立する原子炉の危険性は口をつぐんで再稼働を急ぐ。もはや精神分裂症と呼ぶべきか、認知症なのか。習近平2期体制は対米、対北朝鮮という喫緊の課題に直面している。その態勢作りを横目で見ながら、その意味をまるで理解できないチャイナ・ウォッチャーたちにいかなる社会的意味があるか理解に苦しむ。この機会に猛省を促す次第である。

付、NHKの中国報道についての公開質問状 横浜市立大学名誉教授矢吹晋

1 2012年10月から2017年10月の間に、王岐山常務委員の留任あるいは残留に関して、NHKはどのような報道を繰り返したかを明らかにされたい。

2 中国共産党のいわゆる「七上八下」なる潜規律についての認識を明らかにされたい。

3 王岐山常務委員は「三任期留任」も「残留」もなしに引退したが、この事実をどのように報道し解説したかを明らかにされたい。

4 王岐山留任説はどのように取材に基づき、何を根拠としてこの認識を得たのか、このような報道をなぜ繰り返したのか、その理由を明らかにされたい。

5 矢吹の半世紀に及ぶ研究に基づけば、王岐山留任説は、根も葉もない単なる憶測に過ぎず、矢吹はその主張を繰り返して来た。NHKは憶測（のみ）に基づいて、中国報道を続けたと見受けられるが、世論をミスリードした責任をどう認識しているのか、見解を示されたい。

『ニューズウィーク』（日本語版2011年10月27日）は長岡義博編集長による「中国共産党大会、メディア『人事予測』の成績表」なるものを掲げている（右掲の図）。しかしながら、この分析、採点表は、

公表された「チャイナ・セブン」		習近平	李克強	栗戰書	汪洋	王滬寧	趙樂際	韓正
[メディア]	[掲載日]							
読売新聞	8月24日	○	○	○	○	×	×	○
毎日新聞	8月28日							
朝日新聞	10月12日	○	○	○	○	△	△	○
ロイター（英）	10月16日							
サウスチャイナ・モーニングポスト（香港）	10月19日 10月20日							
産経新聞	10月24日	○	○	○	○	○	○	○
日経新聞	10月24日	○	○	○	○	○	○	○

ルールを何も知らない者による素人の欠陥に満ちている。長岡曰く、中国政治の奥の院である「中南海（共産党要人が暮らす首都・北京中心部のエリア）」を取材するのは極めて難しい。特に習体制になってから情報統制が強まった。政治局常務委員はもちろん、その下の政治局員、さらにその下の中央委員といった政策決定に携わる幹部への取材はほぼ不可能になっている。「中南海の要人に取材するのは到底無理」と、日本メディアの元北京特派員は本音を漏らす。数年前まで、毎年春に開かれる全国人民代表大会の冒頭に示されるGDP成長率の目標値を公表当日までにスクープするのが日本人記者の大きな仕事の1つだった。それもここ数年、すっかり見られなくなっている。そんな中、8月24日にいち早く常務委員、7人のリストをスクープして世界を驚かせたのが読売新聞だ。リストには次

世代リーダー候補と言われた陳敏爾、胡春華の2人が含まれていた。28日には毎日新聞も「『ポスト習』に陳氏内定常務委入り」と報道。しかし、結果的にいざれも誤報だった。朝日新聞が常務委員の人選を記事にしたのは、党大会開催が迫った10月12日。7人に絞り切れず、胡や陳を「可能性」ありとしてリストに入れた。結局正確なリストを報じたのは、党大会閉幕（25日）当日の朝刊で「同着」した産経新聞と日経新聞だった。この記事を書いた長岡はズブの素人であり、情報の意味を読みきれていない。

8月24日読売、28日毎日が書いたリー

ク源はたぶん同一であり、この時点では、ここに書かれた7名が原案として各方面

に検討のために流されたものと推測して

よい。しかしながら、この原案は、9月末までに、陳敏爾と胡春華が王滬寧と韓正に差し替えられた。それはさまざまの意見が原案を作成した中央組織部に届いたからであろう。そこで決定的なファクターになつたのは、王滬寧と韓正を権威づけて、実務の指導方針を速やかに決定する上で必要な人材動員として必須と認識されたからと矢吹は推測する。ここで重要なのは、差し替えられた陳敏爾と胡春華に何か問題が生じたからではあるまい。こ

れが迫った10月12日。7人に絞り切れず、胡や陳を「可能性」ありとしてリストに

入れた。結局正確なリストを報じたのは、

党大会閉幕（25日）当日の朝刊で「同着」

した産経新聞と日経新聞だった。この記

事を書いた長岡はズブの素人であり、情

報の意味を読みきれていない。

8月24日読売、28日毎日が書いたリー

ク源はたぶん同一であり、この時点では、

ここに書かれた7名が原案として各方面

に検討のために流されたものと推測して

よい。しかしながら、この原案は、9月末までに、陳敏爾と胡春華が王滬寧と韓正に差し替えられた。それはさまざまの意

見が原案を作成した中央組織部に届いた

からであろう。そこで決定的なファクター

になつたのは、王滬寧と韓正を権威づけ

て、実務の指導方針を速やかに決定する

上で必要な人材動員として必須と認識さ

れたからと矢吹は推測する。ここで重要

なのは、差し替えられた陳敏爾と胡春華

に何か問題が生じたからではあるまい。こ

れから5年間に予想される事態に対処するうえで、若い2人よりもベテランの2人が実践的に役立つという判断と思われる。この5年を乗り切れば、多分、年齢歴基準からして留任可能な汪洋、王滬寧、趙樂際を中心に、陳敏爾、胡春華を加えて5名、さらに今回政治局入りしたメンバーから2人を加えた7名が2022年に差額選挙方式で選ばれよう。

しかも、それは、政治局委員25名中、引退者13名を除く12名を対象として候補を絞り、複数候補から7名を選ぶ形を採用することによって、今回までは中央委員レベルまでしか行われなかつた8%の候補が落ちる「差額選挙制」を政治局委員レベルまで拡大する形になる。陳敏爾、胡春華を候補としてたなびらしにしつつ、王滬寧、韓正の昇進を先行させた眞の理由は、この辺りに見出されるかもしれない。

なお産経や日経が25日の前夜に7名を

的中させた、などと書くのは論外である。

多分トップセブンの2人を差し替える修正は9月中に完了していた。その経緯を解明してこそスクープの価値がある。25日決

定前夜に「当てた」などと評価するのは、ほとんどカソニングに近い。18日の大会前夜には香港の主なメディアは7名をすでに報じていたのであり、この事実を知らない

素人の評価は無意味だ。

19期政治局委員

氏名	地位	2022年 年齢	2022年 常委昇格可能性
习近平	常委	69歳、引退	
李克强	常委	67歳、引退	
栗战书	常委	72歳、引退	
汪洋	常委	67歳	再任
王沪宁	常委	67歳	再任
赵乐际	常委	65歳	再任
韩正	常委	68歳、引退	
许其亮	委员	72歳、引退	
孙春兰	委员	72歳、引退	
杨洁篪	委员	72歳、引退	
张又侠	委员	72歳、引退	
王晨	委员	71歳、引退	
刘鹤	委员	70歳、引退	
杨晓渡	委员	69歳、引退	
陈希	委员	69歳、引退	
郭声琨	委员	68歳、引退	
李希	委员	66歳	昇格可能
李鸿忠	委员	66歳	昇格可能
陈全国	委员	66歳	昇格可能
蔡奇	委员	66歳	昇格可能
黄坤明	委员	65歳	昇格可能
李强	委员	63歳	昇格可能
陈敏尔	委员	62歳	昇格可能
丁薛祥	委员	60歳	昇格可能
胡春华	委员	59歳	昇格可能
引退13名			昇格可能は9名

昇進を断念したのは、「習近平三選の思惑」（2017年10月19日・公開アジア研究懇話会）

中国をめぐる最近の物流動向

“一帯一路”を中心に

前国土館大学教授 小島末夫

ただ今、ご紹介にあずかりました小島と

申します。本日はこのような席にお招き
下さりお話を機会を与えていただき、
改めて感謝申し上げます。

先ほど司会の方からも触れていた大い
たように、私はさる3月末を以て国土館
大学21世紀アジア学部を定年退職いたし
ました。それを一つの契機にこれまで15
年間にわたる大学での研究成果として、
人生初の単著となる『世界の物流を変え
る中国の挑戦』を上梓した次第です。一
度手に取って実際に内容をご覧いただけ
れば幸いです。

そこで、本日はこの本をベースに「中
国をめぐる最近の物流動向」と題し、な
かでも今や世間でも広く話題となつてい
る“一带一路”を中心にお話させていた
い

だきたく存じます。

はじめに

今日では、「物流は産業及び生活の血
液である」と謳われるよう、その役割
がますます重要性を増してきております。
しかしながら、実を申しますと、中国で
はその物流（物的流通）という言葉が登
場したのはそれほど古い話ではありません。
事実、現行の改革開放路線へと新し
く転換された1978年末の中国共産党
第11期三中全会の時点はおろか、それ以
降も暫くは“物流”なる単語は存在して
おりませんでした。あるのは単にモノを
運ぶとの意味から“輸送”という言葉が、
長らく使われてきたのです。

そこで、本日はこの本をベースに「中
国をめぐる最近の物流動向」と題し、な
かでも今や世間でも広く話題となつてい
る“一带一路”を中心にお話させていた
い

それでは一体、中国においていつ頃か
らこの“物流”的概念が普通に広く受け
入れられるようになったのでしょうか。

中国では、商業部が1992年に初めて
公式文書で“物流”という言葉を使用
したとされ、翌1993年に商業部と物
資部が統合し国内貿易部が新設された際
にも、同様にその言葉が改めて使われて
いることが分かります。とはいっても、まだ
計画経済時代の名残もあって、それが一
般の間にも十分浸透するようになったのは、
やはり21世紀に入つてからのことだ
と言えます。

そうした中国における物流の現況につ
いて、以下では、陸運・海運・空運の各
視点から今や物流と密接な関係にある
“一带一路”を軸にしてご説明したいと



思います。

1. 広域経済圏 “一带一路”構想の概要

本日ご出席の皆様方は中国のご専門家ばかりとお見受けしますが、おさらいも兼ねてその“一带一路”的概要からまず話を進めさせていただきます。

現代版陸と海のシルクロードとも呼ばれるこの“一带一路”構想は、中国・アジア・中東・欧州を結ぶ新たな広域経済圏構想でもあり、「陸のシルクロード経済ベルト」(一帯、One Belt)と「海の21世紀海上シルクロード」(一路、One Road)の2つから構成されています。これららのうち、前者は2013年9月、習近平主席がカザフスタンの首都アスタナにある同國の大統領名を冠したナザルバエ夫大学での講演時に、また後者は2013年10月、習近平主席がインドネシア・ジャカルタの国会での演説時に、それぞれ初めて提唱したもので、これは沿線上の合計65か国をカバーしていると言われ、総人口で世界全体の6割強を占める44億人を数え、GDP総額では同3割弱に当たる21兆ドルにも上っています。

同構想の政策背景が具体的に示された

ものとしては、2015年3月に中国の国家発展改革委員会・外交部・商務部が連名で発表した文書があります。“一带一路”の共同創設を推進するためのビジョ

ンと行動」がそれです。そこには国際協力分野として、①政策協調、②貿易・投資の円滑化、③資金協力、④民心の疎通と並んで、⑤インフラ整備の連結性が併せて掲げられています。特に⑤では、国際的な輸送メカニズムの構築、とりわけ交通輸送ネットワークの確立に言及がなされているのです。

さらに最近の動きとしては、皆様もまだご記憶に新しいのではないかと思いますが、本年5月中旬に北京で初の“一带一路”国際協力サミット・フォーラムが開催されました。世界の日米両国を含む約130か国、70以上の国際機関（国連、世銀、IMF等）が各代表団を派遣し、イタリア・ロシア・インドネシアなど29か国の首脳（総理・大統領級）を含め1500名以上が参加するなど、改めて“一带一路”に対する関心の高さをまさに内外に見せつける形となつたのです。最後には、向こう5年間で最大1500億ドル（約17兆円）を投資していく方針であることが確認され、次回の会合は2年後に開くことも決められたのでした。

2. 陸路（鉄道）輸送—欧州との陸路をつなぐ鉄道網の延伸

中国及び極東地区～欧州間の第3のルートとして、いま一段と注目を集めているのが国際定期鉄道コンテナ貨物路線です。当該路線は全体的には貨物量がまだ少ないものの、ユーラシア大陸を陸路で横断し、中国と欧州を結ぶこの鉄道貨物の輸



送量は大幅に増大しています。

中国鉄路総公司のデータによりますと、2016年の年間実績では何と前年比2・1倍増の計1702便（列車ベース）が運行されたとのことです。その内訳は、中国発欧洲向けの往行が1130便で、欧洲発中国向けの復行が572便となっています。つまり、中国発が全体の半分を大きく上回る66%も占めてかなり一方通行になっていることが分かります。しかも、仕向け先を細かく見てみると、中國各地からドイツ向けの便数が1034便と全体の実に約6割にも達していることが大きな特徴です。これは、中国から送られる品物が一旦ドイツに搬送されたのち、同国内または同国経由で欧洲各国へと運ばれていることを示しています。

この中国～欧洲間貨物鉄道が初めて開通したのは2011年3月のことです。同年の実績便数はわずか17便であり、全て中国発欧洲向けのアウトバウンドでした。つまり、2016年までの5年間に実に100倍と激増した勘定になります。中国発の国際鉄道直通列車は、同国で4番目の直轄市になった重慶（今年は丁度昇格して20年）からドイツのデュイスブルク向けのブロックトレインです。それは通常「渝新欧」（渝は重慶の別称）と

呼ばれ、重慶より新疆ウイグル自治区の阿拉山口を経由し、カザフスタン～ロシア西部～ベラルーシ～ボーランド～ドイツに至る全長1万1381km、16日間で直送するルートです。輸送される主な品目としては、ノートパソコン（主に米国HP社製）、自動車部品、機械部品などの貨物が挙げられます。

その後、2015年末までに中国の内陸都市を中心に「漢新欧」（武漢～新疆～欧洲（チエコ→ドイツ・ハンブルク））、「蓉欧快速」（成都～欧洲（ポーランド・ウェッジ））、「鄭新欧」（鄭州～新疆～欧洲（ドイツ・ハンブルク））、「蘇新欧」（蘇州～新疆～欧洲（ポーランド・ワルシャワ））、「義新欧」（義烏～新疆～欧洲（スペイン・マドリード））等々、中国内の16都市から20路線が新たに次々と誕生しました。そのうち特に「義新欧」に関しては、中国からスペインまでの全長1万3052kmを21日間で輸送するルートで、鉄道輸送としては世界最長のものです。さらに本年1月には、英仏海峡トンネルを経由して英國・ロンドンにまで到達できようになりました。

中国の対外貿易では、海上輸送が7割近いシェアを占めて主要な輸送手段（モード）となっています。しかも、アジア地域から欧米諸国へ出荷される海上貨物の

列建設発展計画（2016年～20年）を公表しました。同内容の主なものは、まず従来のようにバラバラ感のあった名称を統一し、今後は中国語表記では全て「中欧班列」を用い、英文表記では「China Railway Express」とすること。また、内モンゴル自治区の溝州里とエレンホトを経由する「東」・「中央」ルートおよび新疆ウイグル自治区の阿拉山口とホルゴスを経由する「西」ルートの3本のルートで運行すること。さらに、2020年には中国～欧洲間の鉄道運行便の輸送本数を年間5000便（すなわち、現在の約3倍に増加）にまで増やすこと、などです。なお、このような中欧鉄道コンテナ貨物輸送には、今やDHL、UPSといった欧米系インテグレーターのほか、ケリーロジスティクスやドイツのキューネ&ナーゲル（KN）など外国の大手物流企業も新規参入しているところです。

3. 海上輸送—海運業界の再編と海外港湾への進出

いうした中で中国の国家発展改革委員会は2016年10月、中欧鉄道の向こう5年間にわたる中期計画として、「中欧班

うち、今日では中国が約7割ものシェアを占めるまでに至っているのです。

こうして中国の対外貿易が、特に2011年末のWTO加盟以降、これまでほぼ増加の一途を辿りながら遂に世界第1位へと上り詰める中で（但し、2016年は米国が4年ぶりに首位）、中国発着の海上荷動きも活発化するような傾向にあります。それと並行して、中国における貨物・コンテナ取扱量の拡大が顕著に見られます。

具体的には例えば、中国の港湾別にコンテナ取扱量を比較してみると、世界ランキンギングのトップ10（2015年実績）には第1位の上海港から第10位の天津港まで香港港を含めれば実に7港もランクインしているような状況にあります。いずれも年間のコンテナ取扱量が1000万TEU（20フィートコンテナ換算）の大台に乗っていて、中でも上海港は3654万TEU（2016年は3713万TEU）と第2位のシンガポール港3092万TEUをはじめ他港に比べ突出しております。2010年以来7年連続で世界の座を守っています。まさに上海港の伸張ぶりには目を見張るものがあります。ちなみに、日本で一番取扱量が多い東京港でさえ約430万TEU（世界30位圏

外）に留まっており、下位に低迷したままの状態が続いているです。

他方、中国政府が2014年9月に建国以来初となる海運業に関する国家戦略を発表したのを受け、近年では海運業界でも政府主導による国有企業の合併や再編の動きが加速しています。実際、更なる国際競争力の強化を求めて、大型国有企業同士の「強強連合」に基づく合併・再編が目立っており、世界中から注目を集めているのです。

まず2015年12月、保有船隊規模で中国第3位かつ中国最大のコンテナターミナル・オペレーターを傘下に擁する中国招商局集團（China Merchants Group、1872年創立。本社は香港）が、同4位の中外運長航（シノトランス）を子会社化することで、中国国务院から最終認可が下りました。

次いで、同年12月にはまた、中国の2大国有海運企業であつた中国遠洋運輸集団（COSCO）と中国海運集團（China Shipping）が合併する件でも国务院が承認を与え、翌2016年2月に至り両社の合併が成立しました。ここに特大型中央企業で海運業界の中核的な存在でもある中国遠洋海運集團有限公司（China COSCO Shipping Corp. Ltd.,

2016年創立。以下、COSCOシッピング。本社は上海）が正式に発足することとなつたのです。今ではもはや世界でも類例のない一大総合海運企業集団へと浮上しています。

そうした動きの中で、世界のコンテナ船社によるアライアンス（共同運航）は、本年4月より従前の4大体制から次の3大体制に再編されるようになりました。

• 2M・マースクライン（デンマーク）、MSC（イスラエル）、現代商船（韓国）

- Ocean Alliance：CMA-CGM（仏）、COSCOシッピング（中）、エバーグリーン（台）、OOCL（香）
- THE Alliance：ハペックロイド（独）、陽明海運（台）、ONE（邦船3社、日本郵船、商船三井、川崎汽船）

別表でご覧いただくとお分かりのように、世界の定期コンテナ船社トップ10のほとんどがカバーされ加盟していることが理解されます。いざれもアライアンス再編や事業統合・合併連衡などをテコに、生き残りをかけようとするコンテナ船各社の強い姿勢がうかがわれるのではない

かと思います。

これらのうち、立ち上げが割と早く決

別表 世界の定期コンテナ船社トップ10の輸送力とシェア

順位	船社名	2015年末		2016年末		2017年7月10日現在 シェア(%)
		船隊規模(隻)	万TEU	万TEU	シェア(%)	
1	マースクライン(デン)	585	299.6	328.1	15.9	16.4
2	MSC(スイス)	487	267.9	284.7	13.8	14.7
3	CMA-CGM(仏)	462	182.1	213.7	10.3	11.2
4	COSCOシッピング(中)	294	155.6	161.7	7.8	8.4
5	エバーグリーン(台)	192	93.2	99.3	4.8	5.0
6	ハバックロイド(独)	172	93.0	96.6	4.7	7.2
7	ハンブルク・シュド(独)	134	64.6	60.6	2.9	2.7
8	OOCL(香)	104	56.2	57.6	2.8	3.2
9	陽明海運(台)	99	53.1	57.0	2.8	2.8
10	UASC(クウェート)	57	51.3	52.5	2.5	-
11	日本郵船(NYK)	97	49.6	51.9	2.5	2.6
12	商船三井(MOL)	95	55.4	49.5	2.4	2.6
15	川崎汽船(KLINE)	66	38.0	35.1	1.7	1.7

(出所) 仏アルファライナー社の資料を基に筆者作成

定されたのが、新アライアンスのOcean Allianceです。先に紹介したような中国の有力海運企業同士の合併に加えて、韓国一の韓進海運の経営破綻などが直接の引き金になったと言われます。さらに本年7月には、中国のCOSCOシッピングが香港の同業で世界7位のOOCLを買収すると発表しました。これが実現しますと、市場シェアで世界第3位の大海上運会社が生まれる見通しです。

このように中国の海運・港湾各社は、上記の“一带一路”構想がより具現化されるにつれて、主にアジア・欧州・アフリカ地域などの同沿線国港湾を目指して海外進出を急速に拡大させつつあります。ここでは、その一つの事例としてCOSCOシッピングを取り上げお話し申し上げたいと思います。

これまで合併前のCOSCOは、1963年6月にエジプトの地中海に面したポートサイド港に代表処を設置して以来、その海外事業を積極的に推進してきました。同グループ傘下の中遠太平洋有限公司（合併後の2016年7月に中遠海运港口有限公司と改名）が、従来は世界各地のコンテナ埠頭運営会社などに投資を行う形で次々と海外事業の展開を図ってきたのです。

COSCOシッピングが公表した2016年度報告（年報）を見ますと、2016年12月31日現在、同グループが参画している海外コンテナ埠頭の総数は9か国10港湾の合計51バースに達し、設計上の年間処理能力は3030万TEUにも及んでいます。これは、同グループ全体の総処理能力のうち概ね3分の1に相当するものです。そうした海外進出の中でも最も注目されたのは、中遠太平洋（香港上場）が2008年11月にギリシャ最大のピレウス港のコンテナ埠頭（第2、3埠頭）を向こう35年という長期間にわたり独占使用する権益を取得したことでした。中国企業が海外港湾の運営権を獲得する初めてのケースだったからにほなりません。

4. 航空輸送－沿線各国と航空協定の締結や新規路線の開設

“一带一路”は冒頭でも述べましたように、陸と海のシルクロードとも呼ばれていることから、空の分野とはあまり関係がないのではないかとお考えになるかもしれません。しかしながら、以下でお示しするように実際は必ずしもそうではないのです。

事実、中国は沿線各国との間で航空協定の締結を相次いで行っており、合計43か国と新規路線（エアリンク）を開設しています。もう少し具体的にお話しますと、中国の国内航空会社は輸送円滑化を図るため新たに70路線を開く計画だとされます。その一方で、外国の航空会社については、沿線ルートに沿った10か国の都市と中国の各都市を連結すべく35本の国際線を開設する予定であると伝えられます。

ところで、航空貨物輸送は海上輸送と同様、今やアジア地域を中心に行開されていることから、その基点となる空港においても同地域が中心となっていきます。とりわけ、世界の空港別航空貨物取扱量では2016年の場合、第1位が香港国際空港（チエクラップコク空港）で462万トン、次いで第2位はフェデックスにおける総本山の拠点空港・メンフィス空港で432万トン、第3位は上海の浦東国際空港で344万トンと続いております。このうち香港国際空港は2010年以降、一貫して世界最大の貨物取扱空港としての地位を維持していきます。

ここで特にご注目いただきたいのは、国際ハブ空港を目指している上海・浦東空港の動きです。同空港は、中国が建国

50周年を迎えた1999年10月に開港されました。同空港は開港以来、欧米系インテグレーターを含む外国の航空会社にとって中国市场への参入を果たすうえでの重要な橋頭堡であったわけです。そのため、まずUPS（米）が欧米系インテグレーターの中では初めて同空港に国際ハブを構築（2008年12月）し、本年後（2012年6月には今度はDHL（独）が北アジアハブを開設いたしました。そしてフェデックスはと言えば、中国広州の白雲国際空港におけるアジア太平洋地区ハブ（2009年2月）に加えて、新たに米国以外で最大となる施設「上海インターナショナル・エクスプレス・アンド・カーゴハブ」を整備し、本年12月までには稼働予定とされています。

こうしてみますと、浦东空港には欧米系3大インテグレーターがまさに勢揃いする運びとなり、世界でも他に全く例のない稀有なケースで、内外の競争が一段と激しさを増していくことが予想されていところです。

さらに中国では、個人消費の「ネットシフト」が急速に進んだ結果、電子商取引（eコマース。EC）の急拡大に伴って、同関連商品の輸配送需要が国内エクスプレスのみならず、越境ECなど国際エ

クスプレス部門でも急増する傾向にあります。そうして中國内外にわたり「快遞」（速達宅配。国内・国際エクスプレス）業務の取扱量が、著しく増加しているのです。中国は2014年の時点で既に米国を追い越し、世界最大のエクスプレス市場（但し、業務量のみ）となりました。

こうした中で、中国国内の一部の大手宅配事業者は、同業他社との差別化を念頭に入れつつ物流サービスの高付加価値化を図るため、航空貨物分野にも新規に参入しようとする動きが高まってきています。これは、自社によるフレイター（貨物専用機）の保有やハブ空港の運営などで他社との違いをアピールしようとすることが背景にあります。具体例を挙げますと、まず中国郵政（EMS）は江苏省の南京空港をハブとし、上海・武汉を補助として、2006年より国際路線にも進出（台北、ソウル、大阪など）しております。貨物機を既に26機保有しているとされています。次に宅配最大手の民営企業・順豐速運（SFE。本社は深圳）は、湖北省の省都武汉に近い鄂州をハブとし、41機（うちB757-200Fが17機、B737-300Fが14機）の貨物機を目下保有しています。また圓通速遞は浙江省の省都杭州を基地として5機の貨物

機を保有していると伝えられます。例えば、我が国の日本貨物航空の13機、A N A カークの12機などと比較しても、決して遜色ないことが分かるのではないでしょうか。

これらのうち特に順豊速運（1993年創立）についてもう少し詳細に紹介しますと、2009年末に航空輸送分野に初参入して以来、保有する貨物機の数を着々と増やってきており、ボーイング社との新たな購入契約により2020年までに100機体制に伸ばすとの野心的な計画さえ立てています。と同時に、今年からは上記の鄂州市に自社専用の「湖北国際物流ハブ空港」の建設に着手しており、2020年の運用開始を目指し中国版インテグレーターとして総合大手物流事業者への変身が目標とされています。また直近の動きでは、本年5月に米国UPSとの間で合弁会社を設立して国際エクスプレス事業での協業を図っていくことが発表されました。両社共同の取り組みによる新しい物流サービスに関しては、当初はその対象を中国発米国向けの路線で展開するものの、将来的には他の国々や地域にも順次広げていく方針であると言われます。いずれにしましても他に与える影響が大きいだけに、成り行きが極

めて注目されるところであり、その動向からは目が離せません。

5. さらなる成長への課題—まとめに代えて

本日は中国をめぐる最近の物流状況について、主に「一帶一路」の視点から陸海空の3分野に分けお話し申し上げてまいりました。それらを踏まえつつ最後になりますが、中国における今後の物流問題に関してここでは次の3点に絞り指摘することとで、まとめて代えさせていただきます。

まず第1の点は、中国の物流業界は全体として見ると、依然として物流施設や物流システムの運営ノウハウがまだ不足していることです。だが、これは逆から考えますと、日本企業にとってビジネス・チャンスでもあることを銘記しておく必要があります。

次に第2の点は、「一帶一路」に関わる数多くのプロジェクトが、ともすれば政治的思惑が先行して採算を度外視するような、しかも市場ニーズを無視したものが見られることがあります。所謂「メンツ事業」ともさやかれる諸計画に、より注力していることがその証左として挙げら

筆者略歴（こじま　すえお）

1946名古屋生まれ、早稲田大学卒、JETROへ、香港大学留学、JETRO北京所長を経て、2002国土館大学、21世紀アジア学部教授・大学院グローバルアジア研究科教授。

著書『海外進出する中国経済』共著、日本評論社2008、『日中関係史1972－2012 II 経済』共著、東京大学出版会2012、『中国がつくる国際秩序』共著、ミネルヴァ書房2013、『アジアの航空貨物輸送と空港』共著、アジア経済研究所2017、『世界の物流を変える中国の挑戦』創刊社2017。

中国ビジネス回顧

(公財) 日中友好会館 顧問・三菱商事株式会社 元中国総代表 武田勝年

1977年4月12日、33歳の私は、中国輸出商品交易会（広州交易会）に参加のため、香港経由深圳から国境を越え生まれて初めて中国大陸の大地を踏んだ。

大学時代から中国に興味と関心を持ち、60年代末に2年間台湾師範大学で中国語

を学んだ私にとって、期待と不安の入り混じった待望の日であった。国境警備隊の若い兵士の日焼けした顔と深圳駅右側の池で悠々と泳ぐアヒルの姿が印象的であった。広州交易会では、毎朝拡声器から流れる「五星红旗迎風飄揚勝利歌声 多麼響亮……」の歌声に迎えられて会場に入った。以来2007年まで、広州（81～84年）、北京（89～92年）、上海（97～01年）、そして北京（01～07年）の計16年の現地駐在を含め商社業務を通じて約30年間中国人と接し、中国社会の中に

遷を見てきた。この間の断片的な思い出を紹介し、中国で学んだことについて述べたい。

◆第一外国語は中国語

大学入学後、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語の中から第二外国語を選択するように指示があった時、ほとんど迷うことなく中国を選んだ。地球上で英語を除けば中国語を使う人口が一番多い、東シナ海を隔てた隣国としつかり付き合わなければ日本の安定した発展はありえないと考えたからである。今、振り返って見ると、この選択は間違っていたと思う。1962年入学の中国語クラスは僅か19名。我々の同期はノンポリであつたが、先輩の中に

は左翼学生運動の闘士が居られ、中国語学習と政治運動が結びついていた。三菱商事入社後、1968年から台湾師範大学への語学留学の機会が与えられた。この留学2年間の収穫は計り知れない。語学だけでなく中国人としての風格と素養を備えたレベルの高い老師達は、国民党と一緒に大陸から逃れてきた方々で、ここで国語（普通語、マンダリン）の基礎を勉強したほか、中国と中国人を理解する手がかりを学んだような気がする。後日談だが、2001年北京に赴任した時、台湾で同時期に語学留学していた4人が現地で再会する巡りあわせとなつた。阿南中國大使、大高さん（三井物産）、佐々木さん（伊藤忠商事）と私である。



◆上海宝山発電設備受注交渉

1977年11月、李先念副総理のお招きで三菱グループ3社（重工、銀行、商事）の首脳夫妻が訪中した際、私は随員として参加した。李先念副総理が、交渉中の日中平和友好条約、文化大革命後の四人組排除の背景、4つ（工業、農業、国防、科学技術）の近代化、臭老九（知識分子）などに言及され、当時の中国の状況を非常に率直に説明されたことが印象的であった。代表団は、西安、洛陽、杭州、上海を歴訪したが、洛陽から北京に戻る日、随行していた中国国貿促の魏啓学さんが「予定していた列車が来ない。追加料金を払えば別の列車に寝台車を増結できるがどうするか」と問い合わせた。彼の提案に同意し、増結された軟臥車（一等寝台）を代表団計14名で占有したので快適な旅であったが、四人組打倒から1年過ぎた時点で、中国の鉄道輸送の運行が十分に回復していないことをうかがわせる出来事であった。

1978年7月、三菱商事は、三菱重工業、三菱電機と共に宝山製鉄所第1期計画の自家発電プラント商談に参加した。5月から北京に長期出張していた私は現

地で交渉団と合流した。上海市内に十分な宿泊施設が確保できないという理由から、上海市から約60キロ離れた上海石油化工総廠の招待所、金山賓館に案内された。鉄筋8階建、約200室の規模で冷房設備はない。9月初旬までの2か月間、この招待所で正に「月月火水木五金」、連日朝から晩まで技術説明、交渉、内部会議、食事と睡眠を繰り返す生活が続いた。今では考えられないが、現場で作成する大量の資料を印刷するために、日本から湿式コピーマシンを招待所に持ち込んだ。日中双方共に大型プラント商談の経験がなく、手探り、手作りの交渉と書類作成であった。後に国家計画委員会主任に就任された陳錦華氏が當時上海市革命委員会副主任（副市長）で、上海宝山鋼鐵總廠工程指揮部副総指揮を兼務し、あの颯爽たる風貌で時々現場に顔を出されていました。最後の商務交渉は10月に北京で行われ、石炭焚き火力発電所設備35万KW2基を受注した。この成功を契機に、

三菱グループは中国の発電プラント市場に積極的に参入したのである。私も、この受注交渉で中国側の宝山プロジェクトに掛ける期待の大きさを感じると同時に、実践を通じて中国流の交渉術を学ぶことができた。宝山側のメイン通訳として頑張っていた汪陽さんは、20年後に赴任した上海で再会し、一緒に合弁事業經營に携わることになった。

その後上海長期出張を命じられ、1979年2月から約1年間錦江飯店に事務所を設営して執務した。スイートルームを2つ借りると4部屋あつたので、寝室、事務室、会議室、娯楽室として活用した。物資不足の時代で、パン・麺・卵・肉類・食用油等を買うには糧票（食糧切符）が必要であった。錦江飯店のレストランで、「糧票がないので、レストランで食事をしているが、値段が高くて困る」と冗談を言つたところ、服務員が「これを使いなさい」と貴重な糧票を分けてくれた。書類整理の書棚代わりに筆筒を購入しようとした時には、家具店から結婚証明書の提示を求められた。筆筒は新婚家庭だけが購入できるとの制限があつたらしく。

◆広州事務所開設（改革・開放初期）

1981年春季広州交易会に参加した後、華南地区の経済動向やビジネス環境を調査し、上司に「広州事務所を開設すべし」との意見書を出したところ、「君の意見に賛成する。君が行って事務所を開設しろ」との指示があり、6月に現地

入りし事務所登記が完了した8月に初代所長に就任した。1980年に深圳、珠海、汕頭、廈門に經濟特区が設けられ、改革・開放の先進地域であった華南は香港企業を中心に外国企業の活発な商活動が始まっていた。機械、自動車、食品、紙製品、化学品等ダボハゼ的に取扱商品を拡大し、1983年の成約高は約4千万ドルであった。商談の過程で、我々の提案や見積が顧客側から友人・知人を通して仲介口銭を狙う香港企業に漏れることが頻発しその対策に苦慮した。広州市の街はほとんど廣東語の世界で、普通語を使うと商品の値段が高くなることを学んだ。海南島には数回出張したが、海口市で外国人が宿泊できるホテルは華僑大厦のみ。食事は美味しかったが、バスタブはなくシャワーは水だけ。ベトナム戦争の名残で軍人の姿が多かったが、のんびりした雰囲気の中で自動車用タイヤ製造ラインの商談に取り組んだ。

◆上海時代（国内取引参入、自社ビル建設）

1989年10月から3年間、北京事務所機械部に勤務したが、天安門事件（1989年6月4日）の影響で、当初は商

談が途絶えており日本からの出張者も少なかった。80年代末まで、駐在員は住宅の確保に苦労したが、90年代に入ると外人向けのマンションが建てられ、私が住んだ天壇公寓の住み心地は快適であった。この時期は、中国が本格的に市場経済の確立に向かって歩み始める直前で、対外貿易権を持つ企業が限られていたため主たる取引先は、技術進口公司、機械進出口公司等の国営貿易公司であった。

1992年10月から約4年半本店で勤務した後、1997年4月上海に赴任し

た。上海では浦東新区の開発が本格化した時期で、南京西路にあったオフィスを浦東新区に移転しようとして、趙啓正副市长（後に國務院新聞弁公室主任、全国政治協商會議外交委員会主任）を訪ね、「今後、三菱商事の中国ビジネスの中心は上海です。浦東新区に恒久的施設を建設したいので、適当な土地を紹介して欲しい」とお願いした。暫くして浦東新区土地企画局から世紀公園のすぐ近く張家浜と称する運河の脇の土地を紹介され、13000m²の土地使用権を取得して、床面積5200m²3階建ての自社ビルを建設した（2000年春竣工）。事務所移転計画を発表すると、「浦東は下等地」「通勤が不便」「張家浜が臭い」等々

の上海人に対する評価は、「頭の回転が整備されたので、今では職員に喜ばれ取引先からの評判も上々である。昨年7月初旬、久しぶりに上海訪問の機会があり、周囲の樹木がすっかり大きくなりそれなりに風格も出てきたビルを見て感慨無量であった。ビジネスでは、外高橋保税区の機能を活用して、食品や化学品の人民元決済による国内取引に参入した。中国のWTO加盟（2001年）後は外国企業現地法人が卸売業を営むことが公式に認められたが、それ以前は法的根拠が必ずしも明確でなく、市場秩序も整備されていなかったので、中国職員への指導を徹底し不良債権には細心の注意を払った。私の上海駐在中、ローソンが上海に進出したが、三菱商事が出資する合弁会社も一挙に増えた。東菱貿易（輸出入）、菱農（農薬）、良菱（食品卸）、紫菱（コイルセントー）、菱華（アパレル）、日立建機（中国）等、華東地区だけで合計50社は超えていたと思う。上海は、歴史的に国際社会との接觸が長く、中国の先進都市を自負している。北京の人を「土包子」（田舎者）と呼んでいた。他省市の人々

速く、計算が細かい。女性が強すぎる」と必ずしも好意的ではなかつたと思う。

◆北京時代（社会貢献事業、高速鉄道）

2001年6月、上海から横滑りで北京に異動した。北京はやはり政治の町。タクシーの運転手も政治を論ずるし、日本社会でも小泉首相の靖国参拝や共産党人事等が常に話題になるので、慌てて勉強した。社内では、「中国ビジネスの主役は中国職員でなければならない」と繰り返し主張し、人事制度の整備を進めると同時に、中国で採用した中国職員の本店への出向派遣を制度化した。2003年、SARSが発生した時、ベテラン中国職員から、「社会秩序が混乱した場合、日本人は対処が難しい。事務所は私達が守るので一時帰国しなさい」との申し出があった時は嬉しかった。邦人が不在の期間は、中国職員のみで立派に管理してくれた。2005年、中国各地で反日デモが発生した。この事態を重視した中国日本商会では、日中両国の相互理解促進のために自分たちにできることは何かとの議論を繰り返し、中国の大学生を日本視察に招待する社会貢献事業「走近日本、感受日本」（日本企業を訪問し、

日本を感受しよう）の実施を決めた。事業費2億円は会員企業からの寄付、実施期間は2007年から5年間。この事業の実現のために、中国日本商会の副会長、社会貢献委員長として深くかかわったことは、楽しい思い出であり誇りでもある。因みにこの事業は、10年以上経った現在も継続実施されている。ビジネスの面では、中国の高速鉄道建設プロジェクトに、日本連合の幹事商社として三菱商事が参画し、前線の責任者として私もどっぷり浸かった。日本の乗客第一のシステム設計思想と動力分散型の車両は、中国側技術者の高い評価を得ていたが、最終的には、カナダ、フランス、日本、ドイツからの技術導入、中国国内生産の方式で推進されることになった。中国鉄道部で対外交渉の総括責任者であった張曙光副総工程師は非常に印象深い。技術者としての力量は私は分からぬが、大局を見る判断力、強烈な責任感、決断力、実行力は抜群で敬服に値するものであった。劉志軍部長の信頼の下で、彼が大いに力を発揮したことが今日の中国高速鉄道発展の基礎にあると言える。この交渉の過程で気付いたことは、中国の鉄道産業が計画経済であることだ。市場経済が浸透しつつあった中国の中で、鉄道部が車両

メーカー等関連企業の経営を完全に掌握しており、各企業の経営計画、設備計画、資金調達等は全て鉄道部の決定に従つていたことは驚きであった。2007年、帰任に際して北京華聯の吉小安董事長が送別会を催してくれたが、「6年間の北京駐在期間中マンションを幾つ買ったのか?」との質問があり、「買っていない」と答えると、「商社マンでありますながら蓄財の才覚がない。駄目だな」と直言されたのも今になると楽しい思い出である。

◆お世話をになりました

中国経済の改革・開放の歩みの中で、楽しく業務に邁進し、多くの中国の友人達と交流し、苦楽を共にしたことは、本当に私の財産であり誇りでもある。彼らの大局観、迅速な判断と行動、見事な交渉術は、悠久の歴史と複雑な人間関係の中で育まれたもので、日本人が簡単に学べるものではないが、私の生活を豊かにしてくれたことは間違いない。心から感謝している。自宅の書棚に眠っていたアルバムを引っ張り出し、多くの写真を見ながら懐かしい方々を思い出しました。お礼の気持ちを込めてその一部をここに並べます。



1991年 朱鎔基副総理 中江要介元中国大使会見



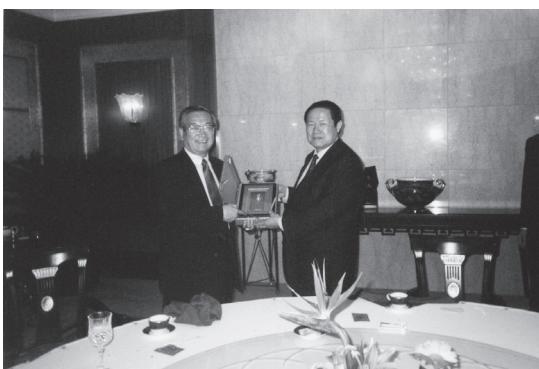
1991年7月 李鵬総理 三菱重工業飯田庸太郎会長会見



2000年5月 汪陽(左) 東方国際集団 副総経理



1999年9月 周禹鵬 上海市副市长



2002年3月 周永康 四川省 書記



2000年6月 謝企華 上海宝鋼集団公司 総経理



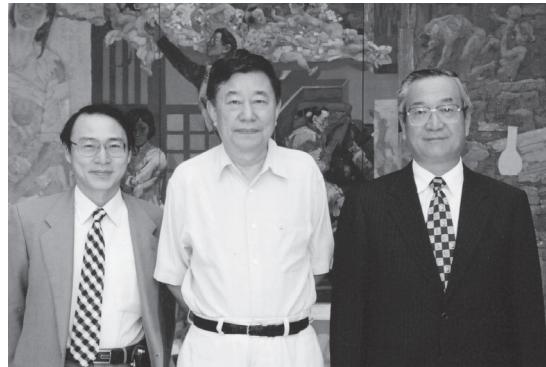
2003年12月 李劍閣 國務院発展研究センター



2003年1月 吉小安(前列中央) 北京華聯集団公司 董事長



2004年8月 王毅 駐日本国大使



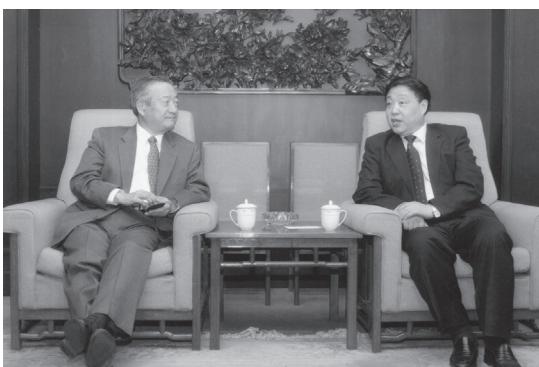
2004年7月 舒己(老舎ご子息) 中国現代文学館 館長



2005年7月 周中枢 中国五鉱集団 総裁



2005年5月 姚錦誠(右) 山西美錦集団公司 董事長



2005年12月 李泉山 天津市商務委員会主任



2005年10月 劉強 遼寧省撫順市 市長



2006年3月 袁英華(前列右) 国家開発銀行 局長



2006年2月 施爾威 中国科学院 副院長



2007年6月 張曙光 鉄道部 副総工務師



2006年8月 呂克儉(前列左二) 商務部アジア司 司長

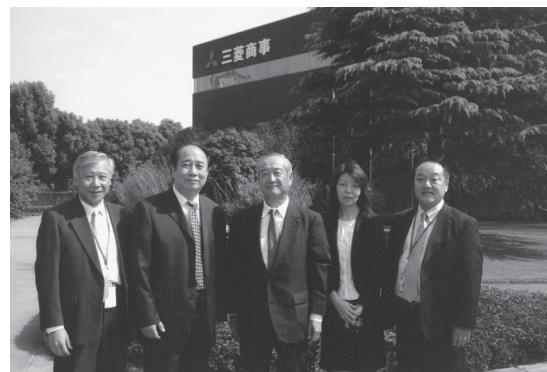
筆者略歴 (たけだ かつとし)

1943年生まれ。

東京大学経済学部卒。三菱商事広州事務所長、北京事務所機械部長、本社建設機械部長、上海事務所長、中国総代理を歴任。

2012年～16年（公財）日中友好会館理事長。
2017年～（一社）国際善隣協会・外部顧問。

○編集部体制で「善隣」誌の編集に当たります
会員の皆様にできるだけ参加していただけるように試みてまいります。
原稿の長さ、書き方、原稿送付方法等、お気軽にご相談ください。
事務局にお伝えいただければ、追って編集部からご連絡をさせていただきます。
(編集部)

2009年10月 趙啓正 中国人民政治協商会議
外交委員会 主任

◆原稿・写真など大募集◆

会員の皆様から、原稿・写真などを幅広く募集いたします。

○「みんなの写真館」

表紙および裏表紙の写真や絵画などを募集します。写真についての短いコメントも付けてください。思い出の写真、珍しい写真、力作の写真、なんでもお待ちしています。

○「旅行記」「体験記」「書評」「詩」「小説」など

多様な原稿を募集いたします。

コラム

〈腰折れ文〉五、

渡邊澄子（会員）

明けましておめでとうござい
ます。でもちっともお目出度く
なんてないのが本音だ。

昨一七年後半のニュースの中
心は選挙とトランプ米大統領の
アジア歴訪だった。屋上屋を架
すことになるが、大義なき憲法
違反づくしの選挙だったのに真
民意だったのか不思議だが自
民党が大勝した。「北」の脅威
を煽る戦略で誘導した権力と金
の力によるカラクリに、知性・
理性の衰退著しい特に若年世代
が易々と乗せられた感がある。
だが勝ちは勝ちだ。振り返って
みると安倍政権誕生以後、政権
批判を数の力で抑えて憲法上疑
義のある数々の法案を強引に通
してきている。日本のデモクラ
シーは危うくなっている。首相
やその妻、さらに一部の閣僚そ
の他の「教育勅語」称賛の発言

に日本会議が力をつけていて、
昭和初期への時代回帰が想像さ
れて怖くなる。トランプ大統領
売り込みだった。安倍氏は加計
氏との交流を思わせる親密さで
もてなしたがそれも税金。妻同
伴の安倍首相の世界各地への頻
繁な旅行も、まだ五万人以上も
の困窮者がいるという原発事故
犠牲者の救済をよそに原発に加
えて武器の売り込みだが、その
費用も税金だ。年収百万、二百
万、三百万で住居費を含めて家
族が憲法に保証された「すべて
国民は、健康で文化的な最低限
度の生活を営む権利を有する」
ことができていると安倍サンは
思っているのだろうか。トラン
プ氏の要求にホイホイと請け合っ
て、既に多額の兵器を米国から
買っているのにさらに言い値で

購入すると約束している。年収
百万の人にも八百万円の国の借
金を背負わされているというの
に、防衛費の激増は自衛隊を堂々
たる軍隊にしようとしている事
と繋がる。自虐的に敢えて卑猥
な表現を使えば、私って「穴の
あなが狭い」のだろうか、税金
で実質「死の商人」と言える外
遊が許せないのだ。私の学会や
調査旅行は自費なので宿泊はビ
ジネスホテルだし、飛行機はエ
コノミーだ。ビジネスクラスの
体験が二度ある。エコノミーと
こんなにも違うものか、ファイ
ストならどんなだろう、生涯に
一度体験してみたいと卑しく思っ
たこともある。ビジネスクラス
体験の一度目は韓国の大学の創
立五十周年祝賀会に講演を頼ま
れた時で、学科長から理事長ま
地として皇民化施策の歴史を思
い辛かった。もう一度は国から
沖縄県民を苦しめている、反対
を無視しての基地への経費や思
いやり予算（思いやらなければ
ならない日本人がゴマンとい
う）他の中身の真実を知りた
い。戦争が人間を容易に悪魔に
変えるものであることを、新年
は七三一部隊に関する厖大な書
を読みながら考ることになる

だ。宿舎は高級ホテルでレスト
ラン、美容院、喫茶店他凡て半
額の特典もある。男性達は妻子
同伴でその人たちの滞在費も国
から出るのだが、その額が過大
過ぎる程過大なのだ。レストラ
ンで食事の時、みんなに、これ
とおかしいですよと言おうかしら、
税金でしょ、こんなに出すなん
ておかしいですよ。政府に過剰
な出費は止めよと言おうかしら、
と言ったら絶対言わないで、と
真剣に言われてしまつた。せめ
て税金分返済にと納税者の友人・
知人達にごっそりお土産を買つ
て帰つた。私の体験はほんの一
例だろう。せめて、安倍夫妻に
使われた税金の総額を知りたい。
そこを端緒にして防衛費はじめ
沖縄県民を苦しめている、反対
を無視しての基地への経費や思
いやり予算（思いやらなければ
ならない日本人がゴマンとい
う）他の中身の真実を知りた
い。戦争が人間を容易に悪魔に
変えるものであることを、新年
は七三一部隊に関する厖大な書
を読みながら考ることになる

中國 ウオッキンク

編・訳 上松玲子



自動運転車来年にも量産化

車の自動運転の発展が加速している。百度公司は、2018年7月末に廈門金龍汽車集団と共同でL4レベル、即ち限られた条件の区域、路線における完全無人運転の小型車の小規模生産と試験運用を始めるなどを、2017百度世界大会で発表、金龍と開発した電動無人マイクロバスを展示披露した。

百度公司の李彦宏董事長によれば今年7月から、百度は正式に無人運転技術向けソフトウェ

アプラットフォームのオープンソース化プロジェクト「Apollo」をスタート。今まで6000以上の開発者からの支持と、1700社の協力企業の参加があるという。このプロジェクトにより当初2020年としていた無人車の量産を2年前倒しして行なうことができる見込みという。さらに2019年には安徽江淮汽車集団、北京汽車集団と、2020年には奇瑞汽車と共に同開発するという。Apolloプロジェクトは雄安新区（河北省保定市に計画される新副都心）とAI交通システムで連携し、雄安に世界で最先端の交通システムを導入することを目指すという。

中国政府は今年4月『自動車産業中長期発展計画』発表、新エネルギー車と人工知能ネットワーク連動車を中国の自動車産業の発展方向と位置付け、2025年までに完全自動運転車の市場投入を目標としている。

（『中国新聞ネット』2017年11月16日）

アプラットフォームのオープンソース化プロジェクト「Apollo」を

上の開発者からの支持と、1700社の協力企業の参加があるという。このプロジェクトにより当初2020年としていた無人車の量産を2年前倒しして行なうことができる見込みとい

うことができる見込みとい

う。60歳の息子が97歳の母親を見るという老々介護の現実は介護人材不足の社会を映し出す。11月12日に開幕した第1回北京認知症高齢者介護フォーラムでは、専門病院やソーシャルワーカー事務所、介護施設、介護専門教育機関などから多くの研究者が参加、実例や日々の業務に基づいて発表した。現在北京市で介護に携わる専門家は700人で、2万3000人が不足しているという。

全国政治協商會議社会法制委員会の張世平副主任はフォーラムで、現在、認知症高齢者に関する低治癒率の三低状態が存在するとしている。施設で暮らす認知症高齢者の率が低いのは対応できる能力を抱えていると指摘され

る。他の役割も抱えながら、介護の負担をも担つており、そのことが介護の質に影響するだけではなく、彼らが第2の患者になる可能性を抱えていると指摘されている。施設で暮らす認知症高齢者の率が低いのは対応できる設備を備えた施設が少ないことのほかに、6割の高齢者の収入が月5000元以下であるという現実もある。

この問題は誰にとっても他人事ではない。

ず、10万人が不足しているとい

う。60歳の息子が97歳の母親を見るという老々介護の現実は介護人材不足の社会を映し出す。王海妍の発表した調査研究報告によれば、認知症高齢者の鬪病期間は5年から10年、家族と同居している人が42%、独居が41%、介護施設入所中が1%とい

う。介護必要時間は平均10時間だが、15%が24時間の介護を必要とする。介護者は配偶者が32%、子女が38%、雇用関係が28%ということだ。

患者の家族の多くが社会的に他の役割も抱えながら、介護の負担をも担つており、そのことが介護の質に影響するだけではなく、彼らが第2の患者になる可能性を抱えていると指摘されている。施設で暮らす認知症高齢者の率が低いのは対応できる設備を備えた施設が少ないことのほかに、6割の高齢者の収入が月5000元以下であるという現実もある。

この問題は誰にとっても他人事ではない。

（『北京晨报』2017年11月22日）

保証金の損失は10億元

倒産が伝えられたシェアサイクルの運営会社、酷騎单车の北京市通州区にある事務所には今月中旬、利用保証金の返還を求める人が列を成し、進まぬ手続きに取り立て屋が出現する有様だった。同社のスマホのアプリは更新を停止、サーバーは接続できない。払戻手続きは複雑な個人認証が必要で、書類一つ忘れたら並びなおしだという。そんな中、会社は北京事務所での保証金返還手続きを一時停止すると発表した。利用者は払戻を受けるために成都の会社に赴かなければならぬ。行けない人のために開設されたという専用電話はいつかけても話し中だ。

別のシェアサイクル運営会社、小藍单车も給与の不払いや事務所の家具の売却が伝えられ、本部はもぬけの殻で、倒産の危機にあるという。

酷騎单车の業務と管理を引き継いだ会社は債務を引き受けている。進まぬ保証金の払戻しに

酷騎单车の前CEOは、保証金の代わりに自転車を当てたらよいと言い出した。

実は、以前からシェアサイクル業界の巨額の保証金の取り扱いが疑問視されていた。この8

月、中国インターネット情報センターが、シェアサイクルの保証金は控えめに見積もっても百億元はくだらない、適切に管理できない。払戻手続きは複雑な個人認証が必要で、書類一つ忘れたら並びなおしだという。そ

んな中、会社は北京事務所での保証金返還手続きを一時停止す

ることが発覚している。

目下インターネットを利用して自転車リースに関して法制化に取り組んでいる深圳市の関連公聴会では保証金の取り扱いに関する議論が集中した。同市の消費者委員会の統計によれば今

年1月から現在までシェアサイクルに関する苦情が1万件以上あるという。

専門家たちは環境に優しいシェア事業の発展は必要だが、事業の拡大に法制化が追いついてい

ないこと、保証金制度に代わる信用体系の確立が遅れていることを指摘している。

(『新華視点』2017年11月22日)

古代製紙技術の復活

開化紙は古くは「藤紙」ともいわれ、唐宋の時代に始まり、明清時代に完成した中国の伝統的な紙である。白く薄い中にも丈夫で耐久性に優れている。明

清時代、『康熙字典』『全唐詩』『四庫全書』など著名な書籍や宮廷文書の多くに開化紙が使われている。

元故宮博物院古籍館の館長で、古籍研究家の翁氏によれば、薄き、丈夫さ、墨の付き具合など他の紙とは比べ物にならないほどよく、開化紙は古代印刷用

「御用」紙として一番の名声を誇り、保管条件がよければ寿命は数百年とという。

しかし、開化紙の製紙技術は歴史の中で途絶えてしまった。

そのため、古書の保存事業に影響が出ている。2007年国務

院は『中国新聞ネット』を発布、この10年間、古書の保護は法律の整備やシステムの構築、目録の編纂、人材育成などの面で空前の前進がみられた。だが、一方で多くの古書が劣化により失われて行き、修復作業が急務とされた。

こうした背景のもと、中国の学者たちが力を合わせて開化紙の復活に取り組んでいる。中国科学院のメンバーで復旦大学の学長も務めた楊玉良氏が開化紙技術研究センターの高級顧問となり今年3月研究拠点を立ち上げた。現在までに復元生産した紙の寿命は2800年にまで達し、紙の纖維を傷めない生物酵素による漂白技術も実験止めた。楊氏は手作業による製紙は優れてるものとの安定しないことから、科学的手法を用いたコンピューター制御による機械生産技術の確立を目指しているという。古

代製紙技術の復活は歴史的文化的意義があるばかりでなく、関連産業に対する経済的推進力もあるという。

(『中国新聞ネット』2017年11月23日)



謹賀新年 2018年元旦

大井 恵美子	入江 俊輔	井上 充	理事 井上經營労働問題研究所	理事 戌亥芳秀	最高顧問 石原健一	青本忠彦
理事長 坂本 新太郎	特定非営利活動法人環境再生 池坊いけばな教授 近藤観月	古閑哲	理事 國光史朗	神原達	常務理事 岡部滋	

鈴木昭治郎	杉山靜夫	神保達	新宅久夫	諮詢委員 諮詢委員會	清水與二	佐瀬恒	東北委員會
藤川琢馬	日野正子	原田克子	野木信洋	顧問 東北委員會	成田正路	寺西修司	
村瀬廣	三原朝彦	古海建一	藤原作弥	顧問 顧問	藤沼弘一	藤田一幸	常務理事・事務局長
遠藤文夫	奉天一中二十二回生	矢野一彌	八島繼男	顧問 代表理事	村田嘉明	村田治雄	國際交流・広報委員會
國際善隣協会「一石会」	山本正和	會長					

是彼員会

「史実資料蒐集」の経緯

中村 肇（会員）

表題に着手した事由は生涯体験の「証」を望んだからである。

小生は昭和12年満洲国鞍山市で誕生、最後の引揚船大安丸（※1）で同22年10月葫蘆島出港、佐世保港に帰還した。父は昭和8年まで八幡製鉄に在籍、家族共々大連航路で渡満し昭和製鋼所に移籍した。

父は終戦後2年間強制抑留されこの1年半余り小生は日籍技術員工子弟鞍山国民学校（※2）に通い小川七次校長、葛西一郎両先生から学び引揚時には通信簿を頂いた。児童期の生き様は多くの引揚者同様楽しかったこと、苦しかったことを交え児童なりに体験、刻み込まれた。

また引揚後内地の状況は他の

引揚者同様生活面でどん底を味わい貧困学生時代を過ごし卒業植物名を探索したらと助言があ

直後に大型船舶海技士免状を取得、乗船勤務について。

機会を得て外資系石油会社に転職、海外諸国出張、多くの体験も重ねた。退職まで35年間の勤務も無事に終え、己の生涯を記録に残したいと再度芽生えたが挫折した。6年余りは幾つかのボランティア活動を続けた。

が矢張り孫たちに己の生き様を伝承したいとの拘りから抜け切れなかった。記憶の中には父の日記、在満復員した叔父の体験談、複数の回顧録書籍内容等を持った。それには精神的、肉体的等からくる次元差、記憶差が繰るのではないかと考え史実を知りたい意欲にわいた。

リスト（※3）の名称及び学名を探索した。これをヒントとし「史実」の探索を決意し（）にとっては生涯終末迄の生業になるはずと確信した。

主な探索先は公文書館、外務省外交資料館、防衛庁防衛研究所、当時の新聞記事等を体験したことに基づき「キーワード」を設定、探索続けて20年以上が経過した。

探索総件数15万件（※4）強、満洲関連が5万5000件余りになったこれら蒐集資料を死蔵してはならぬと考え幾つかの大学研究者、某学会の会長、法人／文化財記念館2か所等に提供してきたが、闇雲な提供は避けた。著作権不理解、誤ったキー

り「マンショウ」冠むりの付いた動植物名、地名や船舶名等105個余りリスト（※3）の名称及び学名を探索した。これをヒントとし「史実」の探索を決意し（）にとっては生涯終末迄の生業になるはずと確信した。

主な探索先は公文書館、外務省外交資料館、防衛庁防衛研究所、当時の新聞記事等を体験したことに基づき「キーワード」を設定、探索続けて20年以上が経過した。

※1..「終連内綴3／4防衛研修所戦史室原本資料」
※2..通称「鳩小屋学校」
※3..「満洲鞍山中学校同窓会誌”天馬”」掲載済み。
※4..平成29年8月末現在



第12回東京オリンピックポスター（昭和15年開催返上）大阪毎日新聞

陶々俳壇

ようよう

兼題..「寝酒」「田」
席題..「霜」

☆○寝酒して極楽ゆきの切符買ふ（和水）　佐藤若杉
醉芙蓉たつた一日のいのちてふ　　”

もてなしは産土神のにごり酒　　橋本紅杓
寺庭に読経の響く秋日和　　”

青女八女の茶烟を白うせり　　南山
作者は研究者である。現役の頃、霜に強い茶葉の研究を頼まれたそうだ。良質の日本茶は、山間の里村で作られることが多いが、それだけに霜対策に余念がない。南山さんは今日も美味しい日本茶を頂きます。

古けれど深ぶか被る冬帽子　　若杉
句会の連衆の方から悲鳴にも近い言葉が出た。「歳をとつて、まことに頭が寒い。まだ春がいてなしても、本当に寒い。よく分かるよ」一体、誰がこの意象に異を挿むことができるのか。

霜降や飛石たどり新聞受け　　紅杓
霜が降りた朝、作者は新聞受けまで飛石の上を辿る。普段は飛石なら気にもせず歩いていても、クリスタルを散りばめたような美しい今朝のアプローチを、無造作に踏むことなどない。

☆○落日を吸ひつくしてや木守り柿（紅杓）　岡和水
花八つ手河童ひそみし沼眠る（宏太）　　”
ダウン症いま書の大家天高し（南山）　　”

☆○日向ぼこよくぞ卒寿を迎へけり　　長野宏太

☆○暮早しひとり降り立つ介護カー（由紀子）　”

☆○寝酒すや近くに止まる救急車　　鈴木南山
木枯らしや一通も来ぬ郵便受け（まもる）　”

秋の灯に鍵盤光り曲を閉づ　　戸部まもる

☆○古事記読み了へたかぶりの寝酒かな　　”

秋聲やときに怒濤の日本海　　馬場由紀子
ふくよかな身のため息や秋拾　　”

☆最高点　○由紀子選　（）各特選

選後評

馬場由紀子

流轉

馬場由紀子

「風雅におけるもの造化にしたがひて四時を友とす、見る處花にあらずといふ事なし、おもひ所月にあらずといふ事なし、像花にあらざる時は夷狄にひとし、心花にあらざる時は鳥獸に類す、夷狄を出、鳥獸を離れて、造化にかへれとなり」

最近、この言葉に触ると、（造化）を（古里）と自動変換してしまう。「風雅におけるもの古里にしたがひて四時を友とす、古里にかへれとなり」句を詠むとき、必ず古里の自然が頭の中に蘇る。見る花は古里の花にあらずという事なし、おもひ月は古里の月にあらずという事なし。目の前に風光明媚な景色が広がっていても、その一つ一つを古里の景に擬えてしまう。旅に行けば決まって古里との共通点を探してしまった。

「ふるさと」なんと甘美で切ない響だろう。私の古里は、子供の頃のままに広大で、荒々しく、それでも四季の花を咲かせ、甘い風を送り届けてくれる。今、古里へ帰ると違う土地へ來てしまつたような錯覚を覚える。「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」すなわち「流轉」こそこの世の実相。古より日本人は無常流轉の中に美を見出すが、一夜にして萎れた野菜の葉を、「覗」になつたとき、果たしてどんな思いであつただろ？

ユニークな景である。霜にも負けず、キヤベツが隆々と並び立っているのはなんとも頗もしい。「憩ひ」に余裕さえ感じれる。このキヤベツ、次第に作者に見えてくるのは私だけではないだろう。

幼少へ帰る睡道曼珠沙華　由紀子

協会通信

同好会だより

一石会

11月围棋大会優勝
瀬崎明氏

◆10月度理事会報告

・平成29年度中間決算について
会長より初めに発言があった。

一日の監事会で報告し、審議の末承認された。財政委員会での審議も終わり、今日の理事会で承認いただきたい」とのこと。岡部常務理事より、資料に基づき詳細説明を行った。藤川常任監事より、「全般の会計処理については問題なく、活動自体も問題なし」ということで承認したとの報告があり、全員賛成で承認された。

会員だより

◎新会員

朝
浩之氏

大類善啓氏

ご寄付御礼

金1万5千円也

金1万5千円也

曲目	役割
吉野天人	役
東北	割
シテ澤村	
シテ鵜川	
ワキ神保	
ワキ土屋	
シテ神保	
ツレ村瀬	
ワキ鵜川	
鵜川	地頭
堀野	
神保	

1月30日例会 実施予定曲目



農家民宿いちばん星（表4）

福島浜通りにある筑「農家民宿いちばん星」。

「竹外清流」（表紙）

『國際水墨藝術大展2008』優秀賞受賞。
(矢野一彌)

台灣・信仰の社(表4下)

台湾は50年間の日本統治の経験がありますが、公共建築物や一般の家の屋の当時の状態での保存に熱心です。台北地区ではそれらは少なくなってきていますが、中部以南ではまだまだ残っています。それらに交じつての台湾の人が素朴に信仰している社が多く残っています（写真）。そこには昔の日本の匂いも存在しているように感じました。

台湾からの強制引揚者も多く、現在でも現地の方が中心の同窓会なども頻繁にあり、交流が続いている。当協会も国際善隣の名前についたがって台湾にも目を向ける必要もあるかと思います。（古閑哲）

生活を余儀なくされています。毎年通つうちに現地の方々との交流も生まれています。今回宿泊した里山にある「農家民宿いちばん星」は震災前は市役所にお勤めだったご主人が幸い津波から免れたお宅を地元の

みんなの写真館

人は気安く集まれるように、また福島を訪れる人に地元の食材の料理や生活ぶりを味わってもらおうと民宿になさったのです。つらいけれども頑張る東北の方々。この宿のよろしく自分なりの“希望の星”を見つけたほしいです。

2018年1月の行事予定

9日（火）14：00 謡曲会（松木先生稽古日）

10日（水）13：00 俳句会

投句の場合は兼題「裏白、池」及び当季雑詠

11日（木）12：00 新年互例会（於 新橋亭新館）

※参加希望の方は事前に事務局までお申し込みください。

18日（木）18：30 ◎公開アジア研究懇話会

「アベノミクスの評価について—異次元的金融緩和を中心として—」

齊藤壽彦氏（千葉商科大学商経学部教授）

23日（火）14：00 謡曲会（松木先生稽古日）

24日（水）14：00 ○公開東北フォーラム

「『満蒙開拓団』の戦前・戦後について」（仮題）

加藤聖文氏（国文学研究資料館准教授）

26日（金）14：00 近現代史講座

26日（金）16：00 ○公開「善隣中国塾」

※参加希望の方は事前に事務局までお申し込みください。

30日（火）13：00 謡曲会例会

1月の会議予定

9日（火）14：00 國際交流委員会 15日（月）14：00 環境委員会

11日（木）15：30 講演委員会 18日（木）14：00 理事会（第14回）

〃 15：30 広報委員会 26日（金）14：00 東北委員会

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。

※下線は通常日程に変更あり

みんなの 写真館

ISSN0386-0345
二〇一八年（平成三十年）一月一日・毎月一日発行

「善隣」第四八七号（通巻七五四）

発行所

〒一〇一〇〇〇四
一般社団法人 国際善隣協会

電話 〇三一三五七三〇五一
東京都港区新橋一丁目五番
代表会

